

カリスマ刷新運動のメッセージ

カリスマ刷新運動に参加する人々は、そこでどのような宗教的メッセージを獲得するのだろうか。次のような調査結果がある。それによれば、実践者の約半数が自己の内面の変化を挙げており、「日常生活における神の臨在感の獲得」(21.1%)、「新しい自己への目覚めと性格の変化」(16.2%)、「神の愛の感得」(11.7%)などである。ここにはこの運動の特徴である、聖霊のバプテスマという聖なるものの直接的かつ個別的体験の具体相が示されているといえるだろう。また、実践者は神の属性を確認し強調するようになってきている。それは、「救済主はイエスである」(13.6%)、「神を力として感じる」(7.3%)、という言葉に現れている。神の超越性が改めて強調されるようになってきているのである。すなわち、信者は神の臨在を感じるようになりつつも、同時にその崇高さを感じ得るようになるといえるだろう。

ほかに、「隣人愛」(4.5%)や「教会あるいは世界の刷新を志向する認識の深化」(4%)なども挙げられ、「自己の内面」と「神の属性」にたいする認識のみならず「他者」認識にも変化がみられることがわかる。しかし、その数値は前者に比べるとはるかに低い。「自己」と「神」という二つの主体の関係性を垂直軸で捉えると、隣人や教会といった「他者」は水平軸に位置づけられる。とすれば、この運動では垂直的な関係性が水平的な関係性よりもはるかに強調されているのだ。これらのことから、カリスマ刷新運動のメッセージは実践者に社会性を獲得させるというよりも、超越者と自己の個別主義的関わりを強調させるものといえる。

こうした調査結果は、運動がアメリカの比較的裕福な学生層から生み出されたという事実を反映している。物質的にある程度満たされた若者たちは、精神的な自由を求めた。ゆえに、この運動は社会変革によって暮らしを豊かにするよりも、超越者とのかかわりにおいて精神的豊かさを獲得することを目指すのである。

プロテスタント系ペンテコステ派諸教会との共通点と差異

プロテスタント系ペンテコステ派諸教会と同様、聖霊の働きを重視するカリスマ刷新運動は、カトリック系ペンテコステ派(pentecostalismo católico)とも呼ばれる。ペンテコステの体験が両者の共通項になっているのである。そもそもペンテコステとは、ユダヤ教の過越祭の50日後に祝われる祭日で五旬祭とも呼ばれる。新約聖書の『使徒言行録』の記述によれば、復活したイエスが弟子たちに「近いうちに聖霊が降る」ことを告げて昇天する。ペンテコステの日に使徒らが集まって祈っていると、激しい風のような音が聞こえ、集まって祈っていた信徒たちが聖霊に満たされて普通の人には理解できない「異言」を語り始めたという。これが聖書の語る聖霊降臨の出来事だが、いわゆるペンテコステ派の信者らはこのような「聖霊のバプテスマ」と呼ばれる体験を求めている。

しかし、両者には次のような違いが認められる。カトリック系では聖母マリアと聖者崇拜も重視するのに対し、プロテスタント系では否定される。プロテスタント信者にとってキリスト以外の「偶像」を信じることは、神の義に反するからである。また、イエスの理解にも違いがみられる。すなわち、カリスマ

刷新運動では、イエスは個人の内面に働きかける存在であり、その結果当人を取り囲む環境の変化が生まれると理解するのに対して、プロテスタント系諸会派ではイエスは苦悩の原因を生む諸悪(悪霊)を直接的に追い払ってくれる存在として理解される傾向が強い。カトリック系では不幸の原因を生み出す最大の悪は人間の思い上がりや神への無関心であって、悪魔が悪をもたらすにしても、通常、諸悪の原因は我々人間自身の内面にあると理解するのである。

解放の神学との差異

ラテンアメリカのカトリック教会では、1960年代以降、低所得者層の生活向上を目指す「解放の神学」が盛んになった。彼らにとって「解放」とは、社会階層間格差を是正して民衆を経済的・社会的抑圧状況から解放することを意味した。ここで冒頭の調査が「解放」について興味深い指摘を行っているので紹介しておきたい。それによれば、カリスマ刷新運動の信者らは「解放」という言葉を社会変革ではなく、自己の内面の解放(a libertação interior)として理解するという。それは、悪からの自己の解放であり倫理性を獲得することである。彼らにとって悪は自己の尊大さや自惚れであって自身の心のありようを映し出したものである。カリスマ刷新運動ではプロテスタント系ペンテコスタリズム同様、悪霊からの解放も射程に入れられていることから、その点でも解放の神学と異なっている。

さて、今日、ブラジルのカトリック教会は、解放の神学からカリスマ刷新運動へとシフトしてきている。そこでは人々が求める救済が物質的・社会的側面から精神的・内面的側面に向かっているのである。先の調査はまた、自己の内的刷新を実現し、家庭や対外的な人間関係を改めることによって、やがては社会の革新につながるという思考がカリスマ刷新運動の受容者らに共有されていると指摘する。

しかしながら、このことはカリスマ刷新運動のミサに参加する人々が物質的・経済的救済には関心がないということの意味しているわけではない。事実、多くの人々がそうした実利的な救済を求めてミサに参加しているからだ。ミサがクライマックスにさしかかると、神父は聖体を掲げて場内を一周する。その時、信者らは、思い思いに写真、身分証明書、労働手帳、水の入ったペットボトル、オイル缶などを聖体の方に向ける。あたかもそこから発せられる聖なる力を受け止めんとするかのよう。聖体はそれらの品々に、健康回復、新しい職、治癒を授ける力を与えることができると信じられているのだ。



聖体を掲げて歩く神父